

教育目標:
目指す学校像: 保護者や地域から信頼される学校
目指す児童・生徒像: 子どもたちが主体的に学び活動する学校
目指す教師像: 教職員が協働して教育活動を創造していく学校

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	今後の課題	学校関係者評価記入欄
豊かに表現する力を育てる教育の充実	考え、豊かに表現し、実践できる力の育成	情報を活用した主体的・対話的な学びの実現	○課題解決にGIGA端末や、既習事項、新聞、図書資料等情報を活用し、主体的・対話的な学びを実現する授業改善を図る。 ○「国分寺学」や各教科で協働的な学びや、校内・地域へ発信等、豊かに表現する学習活動の充実を図る。	3		4		・児童を主語にした主体的な学びの実践を通じた授業改善を図る。 ・校内研修会等を活用し、他校の実践を参考にしながら教員間で情報共有していく。 ・自由進度学習など、児童に学びを委ねる学習にまずは挑戦してみる。	・GIGA端末について、家庭ではあまり活用していないように感じる。市内の学校やDX推進校の取組を参考にできるとよい。 ・GIGA端末の活用によって直ぐに答えを得られるのはよいが、一方でじっくりと自分で考えることも大事にしてほしい。 ・主体的に学ぶことにフォーカスしているのはとてもよい。 ・自由進度学習、実際にはとても難しいのではないかと、自分で学ぶ意欲が低い子は、受け身になってしまうのではないかと。 ・授業を参観すると、工夫して授業しているのが分かる。
		基礎学力の確実な定着 体力の向上	○算数習熟度別指導や東京ベーシックドリルの活用を通して、個別最適な学び方や既習事項等基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ○体力調査の結果をもとに、体育指導の改善や外遊びの工夫を推進し、運動の楽しさを味わわせる。	2		4		・「五小の子」に示された元気に外で遊ぶことを全教員で奨励していく。また、同時に休み時間を活用した体育的活動の充実を図る。 ・体育の校内研究を生かし、授業のスキルアップを図る。個々が体育授業の課題をもち、改善していく。 ・算数を中心に基礎基本の内容の定着を図る。	・放課後の過ごし方は、時代によって変化してきている。外遊びを推奨してもらえないことはありがたい。 ・昨今の暑さの中、一人ひとりの体調を考慮する難しさを感じる。夏季水泳をやらなくなったこと等を含め、経験させたいことと安全面とのバランスある指導が必要。 ・東京ベーシックドリルの取組はとてもよい。基礎学力をあげる意味を児童自身が理解できるとさらによいと感ずる。
保護者・地域と連携し、国分寺市や地域を共に大切に育てる子どもの育成	保護者・地域と連携し、国分寺市や地域を共に大切に育てる子どもの育成	地域・保護者の人材、教育材を生かした、郷土に根差す学習活動の開発	○コミュニティ・スクール協議会等の機能を生かし「国分寺学」を中心に、地域と連携を深める教育活動を継続・発展させる。 ○「国分寺学」の推進や中学生ボランティア等、一学区で小・中連携の取組を行う。	1		4		・これまで積み重ねてきた地域人材を活用した授業は継続しつつ、学習の内容に合わせて、新たな授業を模索していく。 また、学習したことの結果をお世話になった地域の方に発表するなど、発信の仕方を工夫する。 ・「国分寺学」について、本校の目指す授業について再確認し、実践に移せるようにしていく。	・国分寺学を通してどんな人間形成を図りたいのかを含め、目標や目的が保護者に伝わっていない。周知に努めてほしい。 ・新たな取組に挑戦するなど、もっと人材を活用し発展させていってほしい。 ・公民館等、上手く活用してほしい。 ・国分寺学のイメージがもたらしい。国分寺以外に住んでいる先生がたくさんいる中、先生たちにも親しんでほしい。 ・先生たちがどんな授業をしたいのか、そのイメージを共有してCSがフォローしていきたい。
		学校の教育活動について保護者・地域に理解を得る。	○保護者・地域からの情報や学校の課題を、コミュニティ・スクール協議会で検討し、内容を保護者・地域へ発信する。 ○学校からの発信方法について、紙、メール、ブログのよさを組み合わせ、分かりやすく積極的な情報発信を行う。	1		4		・ICT・広報部が中心となり、発信内容や発信手段について記録している。必要な情報であるのか、必要であれば適した発信手段は何か整理整頓し、来年度に引き継ぐようにする。ブログによる発信は、各学年専科で、最低月1回を継続していく。	・ブログをいつも楽しみにしている。ただ、ブログを見ている保護者が少ない。存在を知らない保護者もいるのではないかと。もっとアピールしてほしい。 ・ブログをもっと情宜すればよいと思う。何が求められるのか分析が必要。 ・CSの認知度が低いというのは他校からも聞かれる。他自治体の取組を参考にしながら積極的に情報収集を重ねていく。
豊かな心を育てる教育の充実	人権尊重の精神を育成し、豊かな心を育てる教育の充実	子どもが安心して楽しく学校に通うことができる。	○特別支援や、スタートカリキュラムの理念を生かし、一人一人の多様性を認めた指導を行う。 ○いじめの未然防止、早期発見・解決に努める。 ○学校教育全体を通して道徳教育に取り組み、授業のキーワードを校内に掲示する。	4		4		・道徳を中心として、全ての教育活動において、自分を大切にするとともに、他者を思いやる気持ちが育つように努める。 ・いじめの重大案件0を目指し、多様性の理解や一人一人の良さを認める学級経営に努める。	・いじめの重大案件0を目指すのはとてもよいし、昨年度が0件だったのも素晴らしい。 ・たくさんの交流を進めてほしい。道徳を中心として、自分を思いやる気持ちを育ててほしい。 ・小さいうちから多様性を認め合うことは大切である。 ・児童の帰校時には、地域の人たちに安全な見守りをお願いする方法を作れるとよい。
		自尊感情、自己肯定感の向上 学校や学級への帰属意識の高揚	○保護者・地域と連携し、学校・家庭・地域での適切な言葉遣いや挨拶のできる環境を整える。 ○縦割り班活動等の充実を図り、活動を通して異学年と交流を深め、他を思いやる気持ちを育む。	4		4		・時と場合に合わせて挨拶が当たり前になるよう指導を継続していく。 ・クラブや委員会、縦割り班活動を通して、異学年交流の推進を図る。交流のめあてを設定するなどし、具体的な見通しをもって活動を進められるようにしていく。	・五小の子の挨拶はとてもよく、明るく元気さを感じる。 ・異学年交流のめあての設定は効果的である。 ・異学年交流の成果は、日常、高学年の児童が低学年の児童に接する様子から見て取れる。 ・自分の居場所であり、自分を表現できる場と思える学校を目指してほしい。